

令和2年度病害虫発生予察情報 発生予報第6号

令和2年8月31日
発表：福島県病害虫防除所

1 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
大豆	紫斑病	全域	—	平年並	①配付種子量から見た種子更新率は平年並と考えられる(±)。 ②天候予報(7月22日仙台湾気象台発表)によると、9月の降水量は平年並と予想されている(±)。	①開花後20～40日に薬剤を1～2回散布する。その際、薬剤はサヤに十分付着させる。 ②チオファネートメチル剤は耐性菌が出現しているため使用を避ける。 ③収穫後は高湿度の場所に放置しない。
	吸実性カメムシ類	全域	—	平年並	8月中旬の巡回調査では、吸実性カメムシ類の発生ほ場割合は平年並だった(±)。	発生が見られる場合は莢着期(8月中下旬)～子実肥大期(9月上～下旬)に薬剤防除を実施する。
	フタスジヒメハムシ	全域	—	平年並	8月中旬の払い落とし成虫数は平年並だった(±)。	発生が見られる場合は子実肥大期(9月上～下旬)に薬剤防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

2 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年であった(±)。	
	褐斑病	全域	—	やや多い	新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+) 。	中晩生種で発生が多い場合は防除を徹底する。
	炭疽病	全域	—	平年並	果実での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	今後降雨が予想される場合は、9月上旬以降にキャプタン剤を散布する。その際、総使用回数に十分注意する。
	キンモンホソガ	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	地方の防除暦に従い薬剤散布を行う。
	シンクイムシ類	全域	—	平年並	果実被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発生が多い場合には、防除を実施する。被害果は園外に持ち出すなど適切に処分する。

	ハマキムシ類	全域	—	平年並	果実被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
	ハダニ類	全域	—	やや多い	①新梢での寄生ほ場割合は平年よりやや高く、寄生頭数の多いほ場も見られた(+)。 ②1か月予報(8月27日仙台管区気象台発表)によると、向こう1か月の気温は高い見込みである(+)。	園地での発生状況をよく観察し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施する。
モモ	せん孔細菌病	全域	—	多い	新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高く、発生程度の高いほ場も多く見られた(+)。	秋期防除を徹底し、越冬菌密度の低下を図る。
	モモハモグリガ	全域	—	平年並	新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発生の多いほ場では、収穫後にも防除を行い、越冬密度の低下を図る。
	ハダニ類	全域	—	平年並	新梢での寄生ほ場割合は平年並であった(±)。	
ナシ	黒星病	全域	—	多い	①新梢葉での発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)。 ②果実での発生ほ場割合は平年より高く、発生程度の高いほ場も見られた(+)。	①「幸水」収穫後に秋期防除を実施する。 ②発生の多い園地では落葉処理を実施する。
	シンクイムシ類	全域	—	平年並	果実被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発生が多い場合には、防除を実施する。被害果は園外に持ち出すなど適切に処分する。
	ハマキムシ類	全域	—	平年並	果実被害発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
	ハダニ類	全域	—	平年並	新梢での寄生ほ場割合は平年並であった(±)。	園地での発生状況をよく観察し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、薬剤散布を実施する。
果樹共通	カメムシ類	全域	—	多い	①リンゴ、ナシでの果実被害発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)。 ②フェロモントラップ調査の誘殺数が、複数の地点で例年より多かった(+)。	園地での飛来状況をよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤散布を実施する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

果樹共通	<p>■吸蛾類</p> <p>果実が熟し始めると、吸蛾類の成虫が夜間に果樹園に飛来し、果実を吸汁加害することがあります。そのため、吸蛾類の生息地である山林原野に近い園地では注意が必要です。対策として、多目的防災網等の物理的防除、糖蜜トラップ（砂糖 200 g、酒 200cc、酢 200cc、水 1400cc を混ぜ合わせたもの）を誘引源とした食餌誘殺が有効です。</p>
------	---

3 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト（被覆栽培）	灰色かび病	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であったが（±）が、発生程度の高いほ場が確認された（+）。	①発病葉は摘除し、防除を徹底する。 ②多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	葉かび病	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年よりやや高かった（+）。	①多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	①ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。 ②施設開口部をネット被覆していない場合、発生に特に注意すること。
	コナジラミ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（-）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。
夏秋キュウリ（露地栽培）	べと病	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、発生初期から防除を実施する。
	うどんこ病	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（-）。	蔓延すると防除が困難なので、発生初期から防除を実施する。
	褐斑病	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（-）。	発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。
	炭疽病	全域	—	多い	発生ほ場割合は、平年より高かった（++）。	①発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施する。 ②初期病徴は褐斑病と類似しているので注意する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	①気温が高いと急激に増殖することがあるので、低密度時から防除を実施する。

						②抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
キク（露地栽培）	白さび病	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は、 平年より高かった（++） が、発生程度は低かった（-）。	① 品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。 ② 秋の長雨等が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、平年よりやや低かった（-）。	①気温が高いと急激に増殖することがあるので、低密度時から防除を実施する。 ②抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を徹底する。
リンドウ ※過去5年間の平均値と比較	葉枯病	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、例年並であった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は、例年よりやや低かった（-）。	気温が高いと急激に増殖することがあるので、低密度時から防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

夏秋トマト（被覆栽培）	<p>■トマトかいよう病</p> <p>ほ場での発生を確認しています。本病は細菌病であり、種子や土壌中の病原菌が第一次伝染源となり、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による二次伝染により被害拡大します。作業手袋やハサミ等をこまめに消毒し、被害が拡大しないようにしてください。万が一ほ場で発生した場合は、発病株を速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。</p> <p>■トマトすすかび病</p> <p>8月の巡回調査で、すすかび病の発生が確認されています。本病は、葉かび病と病徴が類似しており、肉眼での判別は困難です。多湿条件下で発生が助長されるので、換気を十分に行うとともに少発生時から防除を行ってください。また、薬剤防除を行う場合は、葉かび病か、すすかび病かを確認した上で薬剤を選択してください。</p>
野菜・花き共通	<p>■タバコガ類</p> <p>巡回調査で発生が確認されています。トマトやキクの新芽や果実の内部に潜り込んで食害します。現時点でフェロモントラップの誘殺数は少なく経過していますが、生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行ってください。</p> <p>■トマトハモグリバエ</p> <p>本種は、ウリ科、ナス科など多くの作物に寄生します。これまでの調査からキュウリやトマトでは、夏期以降に急激に増殖し、被害が拡大することがあるので発生動向に注意してください。</p>

